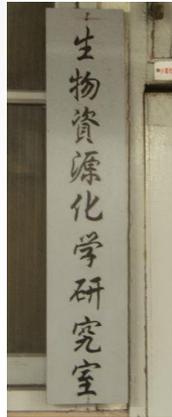




化学工学研究室(215室)



生物資源化学研究室(210室)

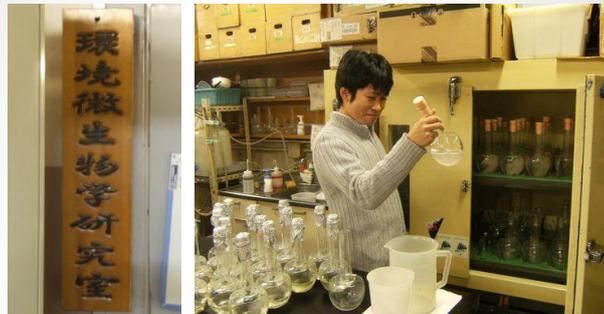


工 化 時 報

第29号



Since 1938



環境微生物学研究室(203室)



高分子合成研究室(213室)

工化会会長あいさつ

工化会会長 深澤 豊史

(昭和58年博士修了)



昨年、平成24年は東日本大震災の翌年、復興一年目ということもあり、国内外共に厳しい情勢ではありましたが、国民が復興という共通意思を持ち同じ目的に向かう歩みを感じられる年であったと思います。また、歴史的な大災害ではありましたが、それによって国民がエネルギー問題、経済問題、外交問題などに対して危機感を持ち、敏感に反応するようになりました。再燃した領土問題、特に尖閣諸島をめぐる中国との外交に関しても厳しい痛手は受けながらも我国の確固たる主張を強調して来たことは、従来からの弱腰外交からの脱却を感じます。歴史的政権交代を遂げ三年間続いた民主党政権は期待外れでしたが、年末での解散、総選挙での大敗により、歯止めの掛からなかった異常な円高と株価低落による経済不況に明るい兆しが見え始めました。「日本を取り戻す」をスローガンにして大勝した野党第一党の自民党を後押ししたのは他ならぬ国民の復興という共通意思だったのしょう。国民自らの意思で希望を見出したと言えます。又この年は四年の節目の閏年オリンピックイヤー、ロンドンで開催された第30回オリンピック大会では日本は金メダルこそ少なかったものの結果として過去最多の38個のメダルを獲得し、秋にはiPS細胞の生みの親である京都大学の山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞を受賞し、我国の底力が世界に示された年でもありました。

この様な情勢の中、工化会は平成20年の学科創設70周年記念の基金による奨学金・若手研究者支援・各種奨励賞の毎年の授与事業が四年目となり円滑に活動するようになりました。また、還暦を迎える会員の方々を総会・懇親会に招待する企画も昨年で三年目を向え、総会・懇親会共に二年連続100名を超える会員の方々に出席して頂きました。今年で7回目となる卒業予定者の就活を支援する毎年恒例の就職懇談会等も活発になってきています。この様な折、平成24年度は前年の総会で承認された「80周年記念会準備委員会」と就活支援の一環として業界で重責を担う会員諸氏(社長や役員など)より構成される「マネージャーサロン」が発足しました。「80

周年記念会準備委員会」は、7月9日に第一回の委員会を開催し、11名の出席者により、積極的な議論が行われました。12月8日に行われた「マネージャーサロン」発足式では、20名程の会員の方々にご出席頂き、発足式とはいうもの就職対策さながらの活発な意見が交換されました。大学側より厳しい就職状況が詳細に報告され、それに対する対策の現状も説明されました。「マネージャーサロン」出席者からは、厳しい就職戦線に勝ち残っていく為に、教授・学生が一体となった就職戦略の提案や現在行われているインターンシップの強化など重要なアドバイスなどをいただきました。

第一線でご活躍の会員の方々より大学側への励ましのお言葉や貴重なご意見等を頂くことによって、より良いパートナーシップを築いていくことは、OB会である工化会にとって大きな財産であり、大切にしていきたいと考えております。

【80周年記念】

早いもので物質応用化学科に改名されてから14年になり、旧工業化学科の学科創設より今年で75年となります。その間二万人に及ぶ技術者を世に送り出し、技術立国である我国の化学技術の発展に大きく貢献してきたことは言うまでもありません。工化会もこれだけの大所帯となり、会員諸氏の消息の管理や配布物の送付など情報の送受信は年々大仕事になり、学内の担当委員の先生方のご苦勞は察するに余り有るところ、ご尽力には常日頃から感謝しております。年々増加する会員の方々をまとめることは並大抵のことではなく、周年の行事を取り行うことも回を追うごとに難しくなってきました。盛大に行われ大成功であった先の70周年記念はまだ記憶に新しいことですが、この様な現状を踏まえ、来るに向けて少々早めですが既に準備委員会が昨年より活動を開始しました。ご承知の通り、二万人に及ぶ工化会会員の中では同期会や各研究室のOB会など会員同士の色々なつながりにより結ばれた多数のお付き合いの輪（今流に言えば“ネット”）がごございます。80周年はこれら皆様方のネットのご協力をより一層仰ぐ必要があると準備委員会では考えております。定期的にまた随意に懇親会等の会合の機会を持たれて居られることと思いますが、この機に、来る80周年を視野に入れたお付き合いの場を是非積極的に設けていただき、ご協力を賜りたいと願って居ります。準備委員会では本誌も含め色々な情報媒体を利用してPRに努め、会員の心が一つになり、80周年を迎えられる様、企画して行く所存です。どうぞ、よろしく願いいたします。

平成24年度就職状況



応化進路指導委員会
委員長 平野 勝巳

進路指導委員会報告

厚労省と文科省が発表した「平成24年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査」(12月1日現在)によると、大学新卒者の内定率は75.0%で、平成22年度の68.8%、平成23年度の71.9%から2年連続で上昇している。ちなみに、同時期の当学科卒業予定者内定率は74.4%、当専攻修了予定者内定率は83.6%であり、大学平均レベルと言える。また、上記データによると短期大学新卒者の内定率は59.3%、高等専門学校新卒者は99.2%、専修学校専門課程新卒者は63.0%であり、総計では73.5%となっている。ついでに前年度の就職率(4月1日現在)を見ると、大学が93.6%、短大が89.5%、高専が100%、専修学校が93.2%、総計が93.5%であった。

これらからわかるのは「高卒以上の就職は高学歴ほど有利とは言えない」ことであり、今や「就職のために大学に入るのではない」のである。もちろん、「大学新卒者と専修学校新卒者が就職する会社や職種は異なる」との異論があるのは承知している。その証拠として入社3年以内の離職率(厚労省の「新規学校卒業者の就職離職状況調査」)を見ると、大卒が28.8%、高卒が35.7%(いずれも平成21年3月卒)とやや開きがあり、高卒の方が苛酷な労働環境にあることが推測される。ただし、このデータも20年前の大卒が27.6%、高卒が47.2%であったことと比較すると、能力主義が浸透した今や学歴の効力が低下していることは否めない。

ゆとり教育を受けて育った今の学生がこれらのデータを見て愕然とし、自らの進路に夢を失って迷うのは当然であり、当委員会でも昨年度から工化会や学科の支援を受けて、迷える学生に就職コンサルタントの有料サポートをつけている。昨年度は大学院内定未取得者10数名をサポートし、全員が内定を取得したが、2年目の今年度は同様のサポートを行っても多くが内定を取得できず、学科に追加予算を申請して20数名に二次サポートを行ったが、それもほとんど効果を挙げていない。さらに、今年度から工化会員のうち高職位に就かれている方々に「マネージャーサロン」を結成していただき、会社見学等の就職支援活動を行っていただいた

が、今のところこれも効果を挙げていない。

就職コンサルタントの報告を分析すると、ゆとり教育を受けた今の学生は自らの進路に夢は特になく、就職する必然性も特に感じてはいないと思われる。彼らは特に何かのために大学に入ったわけではなく、何処でも内定を取得できれば大学を出てそこに就職するが、内定を取得できなければ特に何もしない。今どきのゆとり教育を受けた学生に対する進路指導は、就職や進学への指導に留まらず、社会化の指導が必須なのである。

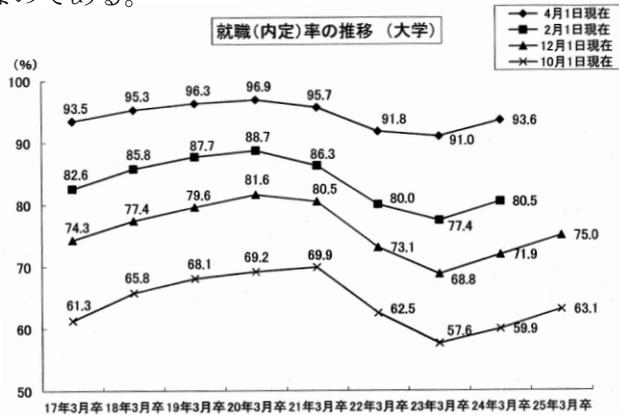


図1 大学等卒業予定者の就職内定状況調査(厚労省および文科省)

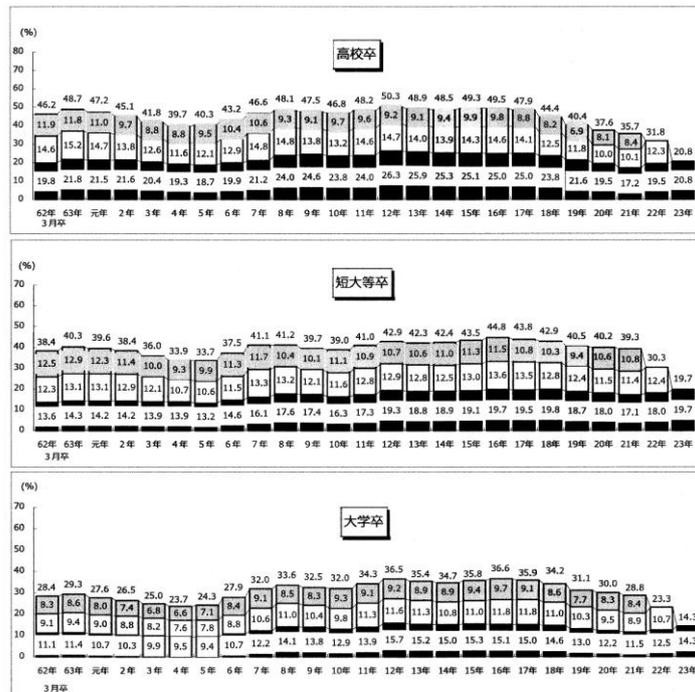


図2 新規学校卒業者の就職離職状況調査(厚労省)

「マネージャーサロン」の発足

在学生の就職活動に対して卒業生の方々にご協力をいただきたいということを考え、一昨年度の工化会通常総会において、各企業で指導的立場にいらっしゃる卒業生の会、「社長・役員会（仮称）」の発足が提案され、了承されました。しかしながら、何もしないまま1年が過ぎてしまいましたが、深澤会長の指導の下、本年度、2度ほどの準備会を経て、名称も「マネージャーサロン」とし、平成24年12月8日(土)に発足式を迎えることになりました。この会に対して賛同をいただいた卒業生は現在、40名ですが、当日はサロン会員22名、教員7名の出席を得て、発足式が行われました。式は初めに、深澤工化会会長から趣旨説明がなされ、その後、学科の進路指導委員長の平野先生より物質応用化学科の就職に関する現状報告をしていただきました。その後、サロン会員と教員間での就職に対するの意見交換が行われ、藤池元工化会会長などより、有益となる様々なアドバイスをいただきました。会議終了後は、5号館食堂にて工化会の役員の方とともに懇親会を行い、有意義な時間を過ごしました。また、マネージャーサロン会員でもある尾島工化会副会長からの提案で、在学生のための工場見学（大正製薬）も実現しました。このように、マネージャーサロンとして今後、様々な就職支援をしていきたいと考えています。

理工学部校友会就職支援サイト 新しいサイト追加で、一段とパワーアップ！

リストラや退職された校友の再就職を支援する「**日本大学理工系3学部校友会 会員就職支援サイト**」に、理工学部校友を対象に、希望により職歴や特殊技能などの情報を求人側企業へ紹介する新しいサイトを追加しました。

- ★ 求職者は積極的に、自己のPRが可能になりました。
- ★ 求人側企業は求職者のプロフィール等の情報を閲覧できるようになりました。

登録・利用などに関わる費用は今まで通り一切かかりません。

詳しくは、下記までご連絡ください。

理工学部校友会事務局 03-3259-0650

平成24年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生の学会賞の受賞，スポーツでの活躍をご紹介します。(集計期間：平成24年2月～平成25年1月)

【学生の部（学術部門）】

- ・佐久田綾（環微） Microscon Poster award
- ・佐藤健太（高合） 第1回高分子学会 GC 研究会シンポジウムポスター賞
- ・川上 葵（資源） 理工学部学術講演会，優秀発表賞
- ・黒田和宏（高合） 理工学部学術講演会，優秀発表賞
- ・金野一希（高合） 理工学部学術講演会，優秀発表賞
- ・吉澤大司（環微） 理工学部学術講演会，優秀発表賞
- ・柿沼俊光（物生） 理工学部学術講演会，ポスター賞受賞
- ・山崎貴司（生資） 理工学部学術講演会，ポスター賞受賞

物質応用化学科から初の国会議員誕生！

平成24年12月衆議院選挙にて昭和60年卒 鈴木義弘氏が当選され，理工学部物質応用化学科OBとして初の国会議員が誕生いたしました。現在は，衆議院 農林水産委員会委員，科学技術・イノベーション推進特別委員会委員を就任されています。

多目的燃料添加剤の製造・販売

有限会社深澤化学研究所

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目14-24

昭和52年卒 取締役副社長 深澤 豊 史



PVC・他合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社

〒348-8585 埼玉県羽生市小松台1-603-29

TEL: 048-561-5221

E-mail: SOUMU@showakvc.co.jp

ホームページ <http://www.showakvc.co.jp/>

昭和53年卒 代表取締役社長 池本 俊一

退職のご挨拶



秋久 俊博 (旧姓 伊藤)
(昭和 48 年(1973 年)修士課程修了)

私こと本年 3 月 31 日をもちまして本学を定年退職致します。1973 年 4 月に副手として奉職以来、40 年の長きにわたり勤務させて頂きました。この間、1973 年～1989 年 3 月の副手・助手時代は恩師、故・松本太郎先生の「油化学研究室」に、1989 年 4 月～1998 年 3 月の専任講師・助教授時代は故・田村利武先生の「有機工業化学研究室」にお世話になりました。1998 年 4 月～本年 3 月の退職時までは教授として「生物資源化学研究室」を主宰させて頂いております。

私の在職 40 年間は、専ら「モノ取り」を生業とする天然物化学の研究に関わって来ました。1981 年 8 月から 1 ヶ年間はスタンフォード大の Carl Djerassi 教授の下にポスドクとして派遣させて頂き、この若かりし頃の体験は今でも鮮やかに記憶に蘇ってきます。休日には、中古で購入した Bobcat (フォードの Mustang の姉妹車) でサンフランシスコなどに度々観光に出かけ楽しんでおりました。私の研究歴の中盤迄は、天然資源からの化合物の単離と構造解明が主で、活性評価は専ら他機関に委ねていました。しかし、近年に至り、生物活性評価も自前で行えるようになり、ようやく本研究室を世間でも通用する研究室に築き上げることが出来ました。天然物化学の研究は優れた素材に巡り会う事が肝要です。この観点から、数年前からタイ・チェンマイ大薬学部の Manosroi 教授ご夫婦 (ご夫婦とも教授であられ、これはタイでは恐らく唯一の例) からタイ伝承薬用植物を送付頂き、共同研究を進めています。既に多くの有用な知見を得ており、今後とも継続発展に値する国際研究プロジェクトと考えています。

この 40 年の足跡を辿ると、1997 年にリバプール大の John Goad 博士と共著の専門書“Analysis of Sterols”を著し、その後、長田洋子(前)教授らと共著の教科書「資源天然物化学」、 「生体分子化学」及び「実験生体分子化学」を著しました。一方、学術論文は 265 編、総説や専門書分担執筆は 27 編でした。以前の論文別刷りを眺めると、その研究を行っていた頃が懐かしく思い出されます。

4 月からは、兵庫県の三田(さんだ)市 (三田牛が有名です) に居を移し、田舎暮らしを始めます。自然環境に恵まれた地域なので、野鳥の写真などを撮りながら山野歩きをするつもりです。また、折を見て 2 号館も訪れたく、その節は宜しくお願い致します。

それでは、末筆ながら工化会員諸兄ならびに応化教室各位の一層のご健勝を祈念してご挨拶と致します。 敬具

クラス会・同窓会の報告

東海地区工化会 旅行会開催

恒例の旅行会が2012.6.3~4 浜名湖周辺で開催された。今回は従来の東海地区以外の交友を誘おうということで交通の便がよい浜名湖 JR 弁天島駅前のホテルリゾートジオーションで集まることとした。その結果参加者は18名と従来になく大勢となった。関東地区からは就職相談室の村川さん、教授の栃木さんなどの5名の参加をいただいた。

幹事は地元で活躍中の内田君(S42年卒)、後藤君(S47年卒)にお願いした。2日間快晴に恵まれる中で、ホテルでの楽しい夜のひととき、周辺の観光、浜名湖名産のうなぎ料理を満喫したことなど地元の方ならではの周到でかつ深い思いが感じられる嗜好であった。参加者全員十分満足し、次回の再開を約束し散会した。

東海地区工化会は旧高専卒の方々より始まり以降その活動は現在まで綿々と続いている。今後ともより大勢の方々の参加をいただき活動を続けてゆきたい。



中井忠男 (S42年卒)

平成24年度工化35クラス会の集い

昭和35年卒業のクラス会は隔年に開かれています。昨年は11月9日(金)でした。久しぶりに参加した梶原君の発声で酒杯を上げ、恒例の一分間スピーチで近況を語り合いました。皆さん75歳以上となってもぼけずに飲み食い続け元気ががやがやと時間の経つのを忘れるほどの元気さでした。市川次良先生にご出席いただき、スピーチで日大の世界と国内でのランキングの相違についての興味深いお話を

聴かせていただきました。工業化学科創設 80 周年記念の年まで元気であるぞと誓い散会しました。

次回は平成 26 年 11 月 6 日(金)の予定です。多くの同輩の参加を待っています。(安達記)



出席者：写真の前列左から（敬称略）

大久保，本橋，梶原，黒木，市川先生，藤井，青木，永井登，谷田部，山本周治，瀧澤，

後列左から

高尾，小林，白石，鈴木修，原，吉井，篠，安達，倉形，吉村，野島，松永，南，藤田周二

2013 年高分子合成同友会開催のお知らせ

高分子合成研究室は 1972 年に設立されてから 2013 年 3 月までにおよそ 1,000 名の卒業生を輩出しており，本年 42 期目の卒業研究生を迎えた。第 11 回目の総会は 2011 年 11 月 10 日(土)駿河台校舎 1 号館にて宇宙航空研究開発機構・横田力男先生からの講演もあり，約 70 名の参加により大盛況であった。大学院生の研究発表会や参加者の交流を目的としたイベントも同時に開催した。本会は豊富な人材ネットワークを気軽に活用できるサロン風産学連携拠点として研究室の枠を超えたネットワークへの発展を強く願ってい



る。興味ある方は研究室（澤口 sawaguchi.takashi@nihon-u.ac.jp 03-3259-0819；萩原 hagiwara.toshiki@nihon-u.ac.jp -0433；星 hoshi.toru@nihon-u.ac.jp -0825；）にご一報を！第12回同友会総会は2013年11月9日(土)駿河台校舎1号館にて開催される。(同友会役員 関口優紀会長, 澤口孝志, 古橋雄二及び片桐正志副会長, 岡崎幹事長, 三柴晶子及び北谷戸尚会計, 新国禎倅及び小笠原守人監査)

42 工化同期会

平成24年10月27日17時から、日本大学理工学部本館2階レストラン「クオリティタイムお茶ノ水店」において昭和42年卒業の「42 工化同期会」が催されました。参加者は21名、我らのアイドル村川さんも出席され、歓談の中、近況を報告したり、旧交を温めたりして、2時間余りの時間がアツという間に過ぎてしまいました。

近況報告ではゴルフ・テニス・旅行など趣味を満喫されている方、地域のボランティアに参加されている方、あるいは今だに現役続行中の方も見受けられ小生にとってはうらやましい限りです。また、参加されなかった方々からも同様な便りが寄せられていました。

同期生には東北出身の方はいないため東日本大震災に被災された方はいなかったようですが、就職先が東北地方のため居を仙台に移した学友は断水やガソリン不足のため不自由な生活を強いられたようです。

従来は3年に一度の開催であったのですが、参加者の希望により今回は2年半後の平成27年春に開催することになりました。その頃は皆古稀を超えてしまいますが、自分も含め結構頑張っているものだなあと、感心させられています。(柳 脩一郎)



第2回(平成24年)工業化学科昭和49年、短期大学部昭和47年卒業生・大学院昭和51年修了生同期会(通称:四駆プラス)開催報告

第2回四駆プラス会は4月7日(土)に村川信子さんをお招きして居酒屋プラザプラスワンで行われた。第1回目と比較して参加人数が半減しましたが、大学時代からの紆余曲折の軌跡に花が咲き盛り上がりました。第3回目は平成25年4月6日(土)15:00プラザとなった。尚、同期へのご案内往復ハガキの作成と郵送(実費)は、工化会名簿担当(伊掛先生)のサービスです。感謝申し上げます。



同期会発起人[青木壮慈朗(油化), 岡田雄二(高工), 尾島光春(分析), 菅野昭(油化), 佐藤憲一(有物), 澤口孝志(高合), 志村修司(燃料), 中山郁雄(有物), 野原孝司(固触), 堀尾良宏(固触), 元木英二(無機), 山中光徳(化工), 和久井弘子(固触)]

問い合わせ先: 澤口 <sawaguchi.takashi@nihon-u.ac.jp>;
03-3259-0819

化学工学研究室(留和会)創設60周年記念会開催報告

化学工学研究室の同窓会である留和会は、5年毎に開催している卒業生の会をこの度、去る10月20日(土)に、研究室創設60周年を記念する会として、ホテルアルカディア市ヶ谷「阿蘇の間」(東京都千代田区市ヶ谷)にて催しました。今回は昭和42年3月卒業の彦坂祥三氏(栃木勝己先生の同期生です)を会の実行委委員長に迎えて企画され、司会は昭和60年3月卒業の林裕之氏にお願いしました。当日

は天候にも恵まれ、総勢 110 余名の卒業生にご参集いただき、盛大に記念会を挙げる事ができました。

会は司会者の名調子に乗せて実行委員長の開会の辞から始まり、故小島和夫先生への黙祷、昭和 29 年 3 月卒業の横田一郎様による卒業生代表挨拶、お祝いに駆けつけていただいた九州大学岩井芳夫教授の祝辞に引き続き、昭和 28 年 3 月卒業の石田壽文氏から高らかに乾杯のご発声をいただきました。その後歓談に進み、会場の各所で同期や先輩と後輩の間で思い出話に花が咲き、いつにもまして和気あいあいとした会となりました。また前年 3 月に退職された栃木先生をお祝いして、記念品の贈呈も行われました。

当日、諸般の事情で欠席された卒業生の方々にも、次回、5 年後の創設 65 周年記念会にはぜひご出席いただければと切望する次第です。なお昭和 44 年 3 月卒業の小西英男様(プロカメラマンです)に撮影していただいた集合写真を本報告に添えさせていただきます。



文責：物質応用化学科教授 栗原清文（昭和 58 年 3 月卒業）

工化時報では OB 会・クラス会報告の記事を募集しております。掲載を希望される方は平成 26 年 1 月 20 日(日)までに下記アドレスまで 200～300 字程度の原稿をお送りください(紙面に余裕があればお写真も掲載します)。
E-mail: Jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp 【掲載料は無料!】

静電容量型変位計・エアベアリングスピンドルの輸入

Progress & Creativity

ピー アンド シー株式会社

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸 2-10-39 (日総第 5 ビル 10F)

電話 (045) 311-8651 ファクシミリ (045) 311-8652

ホームページ: <http://www.p-andc.com>

昭和 35 年卒 代表取締役 安達 昭 郎

創設70周年記念基金運用報告

工化会会員 各位

工化記念基金委員会委員長
深 澤 豊 史

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。日頃より工化会をご支援賜り誠に有難うございます。

5年前の学科創設70周年記念における会員皆様よりの寄付金は、「工化記念基金」として、1)若手研究者支援 2)奨学生支援 3)奨励賞記念授与の毎年の三つの事業資金とさせて頂いております。その詳細は工化会通常総会にて報告しておりますが、80周年までの10年間の事業として今年は折り返し5年目の節目ということもあり、これまで(21～24年度)の実績を以下の通り報告させていただきます。

当初の基金総額：¥12,274,558.-

現在までの受賞者等人数 1)若手研究者 : 6名
2)奨学生 : 4名
3)奨励賞受賞者 : 59名

現在までの支払い総額：¥3,977,000.-

現在の基金残金：¥8,427,558.- ※

※平成21年度と23年度の寄付金130,000.-を含む

博士課程在籍者を対象とした1)若手研究者支援 につきましては、経済面および精神面で大きな支えとなり、大学院へ進学予定者を対象とした2)奨学生支援 では、経済的支援はもとより、大学側としても優秀な学生の本学大学院への確保に繋がり、また高難易度の資格試験合格者などを対象とした3)奨励賞記念授与 に関しては、資格にチャレンジする多くの学生に対して大変な励みを与えております。何れも卒業時に学科等で行われる学位伝達式にて授与しておりますが、受賞者などの愉悦感、授与の榮譽に預かる私共に快く伝わってきます。OBである工化会会員の方々のご厚意である大切な基金を、学業に励む学生への奨励に余すことなく有意義に当てられていることを事業の五年目の節目ではございますが、皆様に報告できますことは工化記念基金委員会にとりまして何よりの喜びでございます。これからも堅実に運用を続けてまいる所存ですので、何卒宜しくご了承お願い申し上げます。敬具

本学元助教授 市川次良 先生におかれましては、平成24年2月28日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

工化会賞受賞者の声

平成23年度 70周年記念賞若手研究者支援受賞者



伊藤 拓哉
(2012年博士後期修了)
資源利用化学研究室卒

現在、私は日本大学理工学部
に博士研究員として奉職してお
り、独立行政法人 新エネルギ
ー・産業技術総合開発機構 (New Energy and Industrial Technology
Development Organization : NEDO) のセルロース含有バイオマ
スの革新的直接液化技術の開発事業に研究員として従事して
おります。このプロジェクトは私が在学中、博士論文のテーマ
とは別に取り組んでおりました「木質バイオマスと廃プラスチ
ックの共熱分解に関する研究」が2011年度にNEDOの戦略的
次世代バイオマスエネルギー利用技術開発事業として採択さ
れ、本学とJFEテクノリサーチ株式会社の2者が共同で受託し
たものです。木質系バイオマスはカーボンニュートラルかつ再
生可能なため、地球温暖化対策上重要なエネルギー源として注
目されています。その木質バイオマスと廃棄物である廃プラス
チックを共熱分解することで、燃料物性に優れた軽油代替燃料
を安価に高収率で製造する技術の開発を目的としています。現
在は実用化を目指して研究に取り組んでおります。産官学が連
携して推進している大きな事業の一端を担うという非常に貴
重な体験ができ、日々勉強の毎日です。また、昨年10月には
本プロジェクトに関してFinlandで開催された4th Nordic Wood
Biorefinery Conferenceにて発表させて頂きました。来年度から
は成蹊大学に助教として採用頂けることとなり、日本大学で学
んだことを胸に研究者としても教育者としても尽力して行き
たいと思っています。

有機合成化学研究室所属 石井 一隆
(平成24年 物質応用化学科卒)

現在、バイオマスの構成単位である単糖類を原料として、バ
イオ燃料の可能性を含む、ヒドロキシメチルフルフラールと呼
ばれる物質へと変換させる研究を行っております。大学院へ進
学し、日々このような研究に打ち込めるのも、ひとえに工化会
の皆様の御支援の賜物であり、心より感謝しております。今後
も勉学、研究に励み、様々なことに挑戦していきたいと考えて
おります。これから大学院を志望する後輩たちにも、このよう
な素晴らしい御支援を続けてくださることを願っております。

平成24年度工化会事業報告

平成24年度工化会通常総会は、駿河台校舎8号館5階851会議室にて平成24年6月2日(土)午後15時より役員・会員645名(内委任状549名)の出席を得て開催されました。総会では、庶務、会計、会員、会報の各委員会の平成23年度事業報告および会計報告、ならびに平成24年度事業計画および会計予算案、役員改選案、校友会の個人表彰の推薦者案の審議を行い、これらを承認しました。通常総会終了後、1号館2階のカフェテリアで懇親会を催しました。本年度の懇親会にも還暦を迎えられる卒業生の皆様をご招待し、盛会の内にお開きとなりました。

事業計画としては役員会、通常総会の開催、駿河台入試フォーラム2012、第13回日本大学理工学部一日体験化学教室、CSTオープンキャンパス2012、CSTオープンカレッジ2012、第7回物質応用化学科就職セミナー、第6回合格者相談会並びに第5回短大ものづくり&サイエンススクールの後援、工化会独自の講演会の開催、工化会賞の授与が決まりました。

また平成21年度から工化会として卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した者に工化会賞を授与しています。本年度も厳正な審査の結果、大学院生6名、学部生26名、短大生1名を表彰者として、3月25日(月)の学部・大学院・短大の学位記伝達式の際に、賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。なお本学科の創設70記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象)、奨学生支援(学部の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短大の修了・卒業予定者で高難易度の資格免状等を取得、または好成績を収めた者が対象)については、それぞれ、1名、1名、13名に対して支援・授与が行われました。

平成24年度の工化会予算については、予算を経常会計予算と特別会計予算の2種類作成しており(特別会計とは準会員(学生会員)還付金を管理するための会計です)、平成24年度経常会計予算は総額290.6万円で、学生支援事業(11.0万円)各種講演会・行事補助費(66.0万円)、卒業生支援事業(122.1万円)、その他(5.0万円)、次年度繰越金(86.5万円)であり、特別会計予算は総額1217.3万円で、卒業生

支援事業(94.5万円)、会費・寄付金郵便振替対応業務(3.7万円)、次年度繰越金(1119.1万円)を計上しております。なお、平成23年度の会員諸氏による会費の納入状況(平成24年4月1日～平成25年1月31日)は、納入者数639名、納入金額は約73.5万円となっています。納入者の中には複数年度分の会費を納入された方や、寄付をお寄せいただいた方も多数おられますが、本号の会費納入者氏名一覧の掲載を持ってこれらの方々への御礼に換えさせていただいています。

さて、本年度は理工学部校友会の個人表彰者として工化会から、真下清先生(昭和41年卒)を推薦致しました。

最後に平成24年度の工化会主催行事ならびに後援行事の概要を記載します。

- ① 平成24年4月21日(土)15:00～16:50 役員会
役員71名出席(委任状14名)
- ② 6月2日(土)15:00～16:00 通常総会
645名出席(委任状549名)
- ③ 6月3日(日)駿河台オープンカレッジ2012
高校生127名が参加
- ④ 7月15日(日)駿河台入試フォーラム2012
高校生364名が参加
- ⑤ 7月28日(土)第13回日本大学理工学部一日体験化学教室
高校生他95名が参加
- ⑥ 8月4日(土)、5日(日)CST オープンキャンパス2012
高校生871名が参加
- ⑦ 11月4日(土)第5回短大ものづくり&サイエンススクール
地域の方のべ129名が参加
- ⑧ 平成25年2月5日(火)第7回物質応用化学科就職セミナー
38社の企業と145名の学生が参加
- ⑨ 2月23日(土)、24日(日)第6回合格者相談会

以上 庶務委員会

産業廃棄物の収集・運搬、中間処理及びリサイクル



〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎3-347

志と覚悟・情熱 60年卒 鈴木義弘

TEL 048-955-1632 E-mail : sanei-k@misato-net.com

ホームページ : <http://www.misato-net.com/3ak/>

会費,寄付金納入者名簿 (平成25年1月25日現在)

昭和16年卒	村上 全司	阿久津 芳彦	梶原 康敬	長谷川 修一
和田守 哲治	山口 猛	網代 良太郎	黒木 妙子	本田 睦治
天野 章	石垣 恭弘	石井 孝二	河合 哲次	森 隆男
津崎 統一	鈴木 一成	石渡 正夫	定方 聰博	旭 重男
昭和17年卒	田村 佐重	工藤 富司	塩澤 進	石岡 龍右
稲垣 達雄	田村 碩基	園田 勲	白石 惠一	磯崎 昭徳
昭和18年卒	宮尾 利政	田中 昭男	須永 晋	長田 守一
浅谷 公洋	石田 壽文	田村 浩司	高尾 俊行	長友 良久
金井 昇介	岩崎 晃	竹内 孟	瀧澤 文男	原 周二
小林 和夫	岡崎 登	竹原 晃	難波 純一	植木 庄左衛門
昭和19年卒	栗田 吉男	東海林 正	野島 秀次郎	佐々木 賢明
矢野 誠	竹村 政一	松本 平	原 幹夫	昭和38年卒
脇 幹夫	福島 敏郎	矢作 栄甫	増田 澄	吉井 彰子
日暮 忠弘	堀 武	依田 惠市	町田 収	井野 二陸
昭和20年卒	吉川 和夫	池島 敬宜	谷田部 寛昭	佐野 直道
磯 基道	昭和29年卒	笹原 孝	吉岡 靖隆	梅田 高生
神本 慶助	井上 秀雄	渋谷 六郎	渡邊 高章	大橋 隆
重藤 捨雄	井上 頼淑	村松 勉	倉形 邦英	大村 俊晴
澁谷 洋平	周 永實	野村 亀利	佐久間 恒和	木村 次雄
杉浦 銀蔵	瀧谷 俊雄	福島 弘之	武田 弘	小松 允
昭和21年卒	谷川 清	細谷 文夫	関口 勝	栗田 公夫
石川 幸一	奈良 富雄	昭和33年卒	高橋 健一	坂本 一
岸 照二	中嶋 貞夫	丸山 義三	丸山 長資	竹内 栄多
斉藤 光平	藤波 篤郎	青山 達也	村川 信子	塚田 豊
長崎 行太郎	峯岸 俊夫	五十嵐 輝行	昭和36年卒	内藤 清剛
馬場 和朗	八田 肇	伊藤 明	石井 四郎	中原 章夫
昭和22年卒	米山 廣保	大井 壽	石井 照明	永田 正巳
大川 襄治	渡邊 文夫	奥野 士郎	石川 隆夫	西浪 毅
昭和23年卒	荻野 堯	加賀 勘之助	宇賀治 正名	原 正樹
川口 清一	高橋 久雄	柏崎 敏郎	漆原 孝太郎	原田 文雄
店網 武男	米田 虎雄	久保田 景一	越智 健二	山口 重周
山下 登	浅川 和昭	熊谷 祐一	仮戸 斌	渡部 長幸
伊東 達郎	昭和30年卒	小林 脩一	川上 進	荒谷 作松
伊藤 讓	綾野 伶	才木 義夫	河内 宗弘	小幡 洋
昭和25年卒	大塚 進	齋藤 二郎	木村 繁夫	白石 益郎
小林 猛夫	金井 孝道	高木 三郎	北林 伸一	杉田 松生
尾高 陽一	高野 俊彦	滝淵 幸二	栗村 規雄	藤野 裕
木根 弘水	寺島 賢治	中島 眞喜雄	黒尾 良康	昭和39年卒
柳田 雄三	松田 誠一	永井 滋	齋藤 博	赤池 昭彦
丹野 裕	森 康男	西野 武	坂本 昌伍	秋本 幹夫
古館 和夫	植竹 和也	藤田 亘弘	鈴木 善治郎	石井 国昭
吉岡 典照	笠間 三男	箕浦 滋	炭田 幸宏	石川 和正
吉田 耕一	臼井 徹郎	宮森 隆志	崎下 昌道	片岡 康浩
昭和26年卒	近藤 練太郎	山内 良夫	高柳 裕臣	神谷 神谷
鈴木 信夫	昭和31年卒	吉田 靖	武田 光司	亀村 轟
棚池 宏明	伊藤 博国	神保 忠男	古澤 祖	児玉 義宏
棚橋 和弘	長縄 なを子	広瀬 俊雄	松嶋 精一	佐藤 栄一
平田 達男	尾関 富夫	昭和34年卒	松本 規雄	斎藤 伸之
稲垣 正	川口 國雄	牛込 力夫	村越 英彦	斎藤 博之
太田 精一	小島 照美	大久保 勝弘	矢本 暖郎	斎藤 守園
加納 照彦	小松原 彬	児玉 五男	柳 弘来	鈴木 功
川西 正人	杉浦 允	佐藤 忠	横山 樹静	鈴木 庸一
谷 俊一郎	鈴木 一郎	田尻 勝紀	吉田 昌弘	瀬尾 宏
昭和27年卒	田中 宏之	玉置 憲三	佐藤 眞男	竹石 肇
植松 貢	高木 弦	日比野 猛	砂川 憲二	武田 幸久
柏木 治彦	高橋 一正	藤森 信正	小串 照宗	奈良木 亨丞
日置 隆	役重 典之	松浦 豊紀	昭和37年卒	中沢 甫
市川 次良	中沢 利勝	宮 道夫	荒野 健一	中田 博
勝又 茂	長縄 賢	小田切 孝光	伊地知 竜清	中野 洪
木下 眞喜雄	廣橋 亮	栗原 孝夫	井上 靖治	小林 実
国分 兼一	安田 信人	昆野 澄夫	奥山 正之	仲野 一次郎
櫻木 輝志	伊藤 ミサヲ	横倉 隆康	梶山 秀矩	野口 文雄
新谷 光良	米倉 久雄	昭和35年卒	小林 昭朗	野尻 義雄
井出 俊一	柿澤 正彦	安達 昭郎	駒井 俊雄	原 襄輔
石田 宏	市町 衆司	青木 滋夫	斎藤 一郎	平井 勲
高田 芳行	雁部 敬夫	青木 弘	庄司 翠	堀 是治
林 貞吉	田畑 調友	石川 好隆	杉崎 秀夫	田幡 安郎
和井内 徹	吉田 幸三	内田 穆堂	丹野 彰	山崎 彰
昭和28年卒	昭和32年卒	笠井 啓也	塚田 政弘	横田 力男

和田 高伸	浅井 保雄	中村 宗光	昭和54年卒	平成2年卒
青木 匡	新井 浩一	平林 明夫	榎本 充男	石川 恵子
板橋 重光	宇智田 俊一郎	山中 操	小笠原 幸道	菅野 元行
香山 武夫	海上 幸三	吉井 康雅	太田 延幸	平成3年卒
北村 隆	北村 正孝	渡辺 明典	貞利 英之	村原 伸
小屋原 英雄	佐藤 彰徳	大高 由輝	椎野 宏明	高田 昌子
鈴木 良治	斉藤 明臣	川津 義人	中村 真理子	平成4年卒
田中 誠悦	及川 誠之	小宮 清子	服部 洋一	宮崎 裕子
高松 武生	佐藤 精二	坂口 信昭	村井 信次	林 由浩
橋本 信之	進藤 宣詔	岡本 雅美	目良 昌三	藤池 一誠
富士 光男	昭和44年卒	梶井 敬親	谷藤 善美	松田 和夫
寺山 洋子	安藤 純一	藤井 克彦	山中 一典	堀江 里衣子
稲見 義子	石井 和夫	矢田 智	鈴木 昌三	平成5年卒
坂口 栄	石山 利男	関口 優紀	飯沢 美智子	小泉 公志郎
藤池 曠子	井上 隆	昭和49年卒	昭和55年卒	吉川 将史
矢野 彰一郎	今脇 秀雄	青木 壮慈朗	小笠原 一恵	米田 哲也
昭和40年卒	大橋 正宜	牛山 仁司	小笠原 守人	平成6年卒
高田 菊平	岡本 彬	尾島 光春	金子 堅司	清水 孝
稲葉 清彦	北島 徹夫	岡田 雄二	黒瀬 健介	遠山 岳史
岩崎 紘一	新藤 豊彦	久保 隆	丸山 博秀	平成7年卒
上田 輝世	末延 温之	小島 元昭	森 弘通	岡田 賢識
上野 公雄	関口 信夫	小林 正男	波岡 宣彦	谷合 哲行
牛山 恵次	田中 通夫	小茂田 英男	昭和56年卒	平成8年卒
上條 陽一郎	花井 秀之	佐藤 憲一	池田 実	野地 章平
河村 勝弘	堀 弘順一	潭口 孝志	古屋 実	平成9年卒
佐藤 瑞雄	八幡 順一	末木 康行	熊谷 一弘	林 秀憲
土田 紘一	横山 二郎	高本 秀夫	植松 烈平	平成11年卒
向井 常雄	小田原 豊	武安 栄樹	大沼 明	樋口 孝夫
高橋 志郎	小林 勉	館 徹	昭和57年卒	平野 壮哉
武井 秀彦	浜田 文雄	野沢 美文	荒木 洋子	平成13年卒
丹野 隆善	原 幸夫	元木 英二	田島 みゆき	藤田 尚之
西脇 鉄雄	剣持 晃	谷島 和夫	小暮 勝彦	平成14年卒
幡野 匡彦	昭和45年卒	澤崎 芳男	小桐 幸夫	角田 雄亮
三谷 賢治郎	小林 満	相澤 貞	中村 宏昭	吉川 賢治
清水 博太郎	篠崎 勝彦	田島 平良	中村 明裕	平成16年卒
飯原 打越	田中 碩久	昭和50年卒	伊藤 和宏	村田 純子
山岡 景仁	土田 久	上田 賢二	梅田 栄一	平成19年卒
有田 喜一	常木 英夫	上條 治夫	内田 陽子	亀井 真之介
昭和41年卒	中沢 之博	木股 茂	鈴木 勝	平成20年卒
安藤 正信	永島 一男	木村 直彦	佐藤 慎一	東條 未樹
塙 仁一	成川 憲男	汐澤 日出夫	昭和58年卒	平成21年卒
藤池 誠治	服部 正隆	神保 尚幸	岩崎 好高	山口 理紗
堀内 宣秀	平塚 良一	鈴木 拓雄	飯田 隆久	吉田 隼人
村井 直樹	宮内 和司	鶴田 正之	栗原 清文	平成22年卒
木村 勲	望月 昭宏	中島 邦夫	鈴木 澄夫	平野 真央
嶋田 晋廣	森崎 正美	野原 正男	田村 精一	山田 彩乃
館 敏夫	山田 達雄	中野 功	長 茂輝	星野 宏
白龍 美津夫	佐藤 宗衛	三好 美智夫	前田 篤	平成23年卒
彦田 一夫	瀬戸 博	牛込 淳彦	矢島 浩之	稲葉 真之
丸山 武紀	寺田 高德	長井 一良	立岩 洋	春日 龍史
芳崎 弘一郎	森田 尚	昭和51年卒	菅原 節子	教職員
高桑 豊	昭和46年卒	荒澤 康夫	長谷川 潤	青山 忠
伊藤 英武	川島 英郎	井之上 佳三	昭和59年卒	長田 洋子
玉應 亨三	菊田 茂	重盛 正男	清水 繁	大月 穰
昭和42年卒	小谷 将彦	佐野 勝栄	古澤 功	平野 勝巳
今田 雅躬	齋藤 政久	昭和52年卒	昭和60年卒	西村 克史
岡見 宏道	杉田 康一	池田 孝久	石井 真詞	櫛 泰典
片岡 庸郎	鈴木 博一	栗村 嘉明	鈴木 義弘	梅垣 哲士
鈴木 啓輔	高橋 秀樹	荻原 謙二	昭和61年卒	須川 晃資
中井 忠男	丹野 幸久	斉藤 孝	片桐 正志	小川 恵三
中川 芳雄	三宅 久利	最勝寺 公英	小嶋 芳行	鈴木 佑典
永井 紘志	昭和47年卒	深澤 豊史	高間 幸夫	
永田 一雄	駒屋 伸雄	古橋 雄二	津田 聡司	
豊田 文江	齊藤 菊夫	岡田 慎蔵	昭和62年卒	
山下 睦之	丹呉 秀博	生方 正之	加藤 慎次郎	
渡部 高尚	津野 岳彦	新国 禎倅	塚原 文子	
稲川 栄一	何木 正芳	昭和53年卒	塚田 雅人	以上640名
長田 義男	森 伸一	五十嵐 博	幾留 孝司	
佐藤 馨	飯倉 登美雄	勝亦 章行	根本 俊寛	
田中 秀也	山崎 雄三	鐘 信弘	昭和63年卒	
高橋 秀雄	昭和48年卒	中込 幸二	三井 宏	
成田 勝紀	加来 文隆	原田 哲也	中道 幹芳	

編集後記

卒業論文発表会、そして修士論文発表会も終わり、いよいよ本年度も終わりに近づいてきました。つまり、工化時報の編集も今山場を迎えています。

さて、物質応用化学科では、本年度から遺伝子組換え実験が行えるようになりました(詳細は次号の工化時報でご報告します、お楽しみに)。生物の遺伝子を組換えて、工学的な価値を上げる訳ですが、理工学部でも組織の組換えが行われました。研究においても教育においても、価値の向上につながることを期待されます。われわれ物質応用化学科も、工化会と強力なタッグを組み、現在と未来を見据えたスピーディな「組換え」によって進化した新しい「いきもの」に生まれ変わったらと思いつつ、来年度も精進して参ります。

(工化時報編集委員 西村克史)

お知らせ

平成25年度の行事予定

6/1(土) 工化会総会 15:00～ (121会議室を予定)

※総会后、工化会ホームカミングデーを開催

7月27日(土) 一日体験化学教室

8/3(土), 8/4(日) CST オープンキャンパス 2013

連絡先

- ・住所変更に関する問合せ→会員(深津 TEL:03-3259-0805)
- ・会費に関する問い合わせ→会計(清水 TEL:03-3259-0803)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(平野 TEL:03-3259-0815, FAX:03-3293-7572, E-mail: jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp)
- ・上記以外の関する問合せ→庶務(栗原 TEL:03-3259-0822)

広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。

掲載料 1件 : 10,000円

発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

伊藤和雄, 石黒香織, 小川 誠, 永島一男, 橋本徳子,
須川晃資, 谷川 実, 遠山岳史, 西村克史, 萩原俊紀, 平野勝巳

学生編集委員

4年 阿川由里, 斉藤 翔, 田丸慎司, 鳴海奈々, 森田啓子

ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>